

## 「MOX燃料加工施設に関する県民説明会弘前会場」議事録

日 時 平成17年2月25日(金)

14:00～16:00

場 所 シティ弘前ホテル「青陽の間」

### 【司会】

今、皆様から頂いたご質問等について順次回答させて頂きたいと思います。まず日本原燃に対しまして、1:1のMOX粉末とはどんなものなのか、教えて頂きたいというご質問でございます。日本原燃社長からお願いします。

### 【日本原燃株】

日本原燃の兒島でございます。ご回答に先駆けまして私から一言御礼のご挨拶をさせて頂きたいと存じます。本日は大変皆様にお忙しい中をお運びを賜りまして厚く御礼を申し上げます。また、日頃から私もサイクル事業につきまして格別のご理解とご支援を賜っておりますこと、心から厚く御礼を申し上げたいと存じます。お蔭様を持ちまして再処理工場につきましては只今、ウラン試験を着実に、かつ一步一步前進をさせて頂いております。この再処理工場から生産されると申しましうか、あるいは取り出してまいりますウランとプルトニウムを使いまして、新しい燃料を作る、これがMOX燃料でありまして、この燃料をもう一度、原子力発電所に戻して電気を作る新しい燃料にするわけでありまして、そのMOX燃料工場についてのお願いを致しております。この工場につきましては、只今、大桃主査並びに小山委員から詳細なご説明を頂戴致しました。そして、品質保証体制がきちんと行われることを前提として安全が確保されるということの検討結果を頂戴を致したわけでありまして。私どもはこの工場につきましては、第三者の監査を受けながら日々改善を加えております品質保証体制の元でしっかりとやっていきたいと思っております。併せて、その工場の建設並びに運営の進捗につきましては情報公開をきちんと行いまして透明感のある事業運営をしてまいりたいと考えております。どうぞ、皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます御礼のご挨拶と致したいと思っております。引き続きご回答に入りたいと思っております。ありがとうございました。

### 【日本原燃株】

回答致したいと思います。1:1のMOX粉末とは何かというご質問でございます。1:1MOX粉末と申しますのは、私どもの六ヶ所再処理工場に取り出されますプルトニウムの形態のことを言っております。プルトニウムとウランが重量比で1:1に混合した形でプルトニウムを取り出すということでございまして、これが1:1MOX粉末と言われているものであります。諸外国の再処理工場、例えば、イギリス、あるいはフランスの再処理工場ではプルトニウムは酸化プルトニウム、 $\text{PuO}_2$ という形で取り出されるわけでございますけれども、我が国ではプルトニウムを単独で取り出さずにウランと混ぜて取り出しております。これは我が国独自の方法でございまして、平和利用に徹する我が国が核兵器にできるだけ転用しにくいような形でプルトニウムを取り出すということで、独自に技術開発をしたものでございます。この日本で独自に技術開発した技術が六ヶ所再処理工場にも採用されておまして、ウランとプルト

ニウムが1：1の割合で混じった形でプルトニウムを取り出すということでございます。この1：1に混じった形のMOX粉末を原料と致しまして私どもは軽水炉用のMOX燃料を、計画しておりますMOX燃料工場で製造していくということで考えているわけでございます。

#### 【司会】

今のご質問に対する回答で、更に確認、あるいは聞きたいことがあれば拳手を頂ければマイクをお持ちします。粉末の関係はよろしいでしょうか。では、次の質問に移らせて頂きます。

原子力発電が日本の電気の3割以上発電していると聞いています。また、原子力発電に使うウランも石油や天然ガスと同様、近い将来無くなってしまう恐れが高いとも聞いています。そうだとすれば、原子力の再処理は必要だと思えますし、ぜひ安全確実に進めて頂きたいことを希望していますが、新聞等では原子力発電を止めよう、見直そうという動きが世界の流れのような記事を目にします。世界の流れはどうか。日本同様、エネルギーを大量に消費する国々はどのようにしているのか、教えてください。また、日本は大変資源が乏しい国ですが、他の先進国とのエネルギー事情の違いを考えた場合の原子力や再処理の位置づけについても併せて教えてくださいとのことです。資源エネルギー庁からお答え願います。

#### 【資源エネルギー庁】

回答させていただきます。ご質問は世界の原子力発電の流れというのが1点。それから、我が国におきます原子力、再処理の政策の位置づけをお聞きのご質問だと思います。まず1点目でございますけれども、世界の原子力発電所の現状でございますが、2003年12月末におきまして世界で運転中の原子力発電というのは434基ございます。大体、これはIAEAの調べでございますけれども全世界の電力の約16%、これが原子力発電で賄われているということでございます。アジアや東ヨーロッパを中心に36基の現在建設中の原子力発電所がありますとともに、欧米でも最近は新規の原子力発電所建設に向けた動きが出ておまして、世界的に原子力発電を止めていこうとか、そういう動きではないことをご認識を頂ければと思います。国によりまして脱原子力発電を打ち出しているところもございますけれども、その国におけますエネルギー資源の保有状況など国々の取り巻く総合的なエネルギー事情もあると思っております。2点目の資源のない日本がどのように原子力とか、再処理を進めていくべきかというスタンスでございますけれども、一昨年の10月に国はエネルギー基本計画をまとめました。その中で、核燃料サイクル政策を推進していくことを国の基本的な考え方としてきちんと位置づけまして、それに着実に取り組んでいくことを決めたわけでございます。また、昨年11月には原子力委員会が核燃料サイクルにつきまして検討を行いまして、その中で使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウム、ウラン等を有効利用することを基本方針とする中間取りまとめを取りまとめたところでございます。私ども経済産業省と致しましては安全の確保を前提に国民の理解を得て六ヶ所再処理施設の操業に向けました取り組みが着実に進められることを期待しております。

#### 【司会】

今のご質問に対する回答で追加的にということがございますか、よろしいですか。次の質問に移らせて頂きます。チェック検討会に対するご質問でございます。安全性チェック検討会では品質保証体制の確立を条件に安全性は十分確保できると考えているようですが、現在の日本原燃の品質保証体制の何をもって

大丈夫だと言えるのかという、判断に対するご質問でございます。はい、大桃さん、お願いします。

【安全性チェック・検討会】

お答え致します。品質保証体制が整備されたから安全性が確保できると判断したわけではございません。チェック検討会が検討致したのは、MOX燃料の安全性に関する日本原燃のものの考え方、採用しようとしている技術、そういったものが妥当であるということ判断致しました。それで品質保証体制が整備されただけでは、体制が整備されただけで安全とか、安全でないとかということは、言えないわけで、先ほども申し上げましたが、品質保証体制が整備されたことは評価するけれども、それを生かすのは結局は人である。だから、人材育成、それから教育、訓練。そういうものを充実して下さいということをお願いしたと、こういうふうに申し上げたつもりであります。

【司会】

それでは似たようなご質問がもう1つありますので併せてやりたいと思います。概念設計上、安全であることは理解しました。しかし、プール水漏えい事故では下請、または末端の工事作業員の不適切な工事があったと聞いております。このような作業員の不適切な工事をMOX施設の建設ではさせない対策をどのようにするのか。品質保証活動は本当に効果があるのか、どうかということについて日本原燃からお答えをお願いしたいと思います。

【日本原燃株】

ご質問の件でございますけれども、私ども日本原燃は先ほど報告でありましたけれども、トップマネジメントによる品質保証の徹底ということで品質方針や、その方針を具体化した品質目標を社内及び協力会社に周知徹底しております。この品質方針の中で、平成17年版を先日発行したのでございますけれども、この中にも現場第一主義を明示して徹底しております。MOX工場の建設や運転、保守に当たっても、この現場の第一主義を元に当社社員が現場に出向きまして、自らの目で工事などの品質の確認を行ってまいることとしております。また、日本原燃は元請会社は元より、その下請会社に対しても必要に応じて監査を行いまして品質保証体制が確立されており、作業員の不適切な工事を許したり、見逃したりしないような管理がちゃんと行われているかということに関して監査を行ってまいり所存でございます。

【司会】

品質保証の関係で2問に対するお答えをさせて頂きましたけれども、これについての関連でご質問ございますか。

【会場から】

大桃主査にお聞きしたいというか、県民が安全性チェック検討委員会がどんなコメントを出すのが注目していると思います。一番大事なのは最後の結論の言い方だと思うんです。そこで安全性は十分確保できるものと考えられると止めてしまうと、ああ、大丈夫なのかなと思ってしまい、この前提のところ適切な品質保証体制を確立することによりということ、確立されていればの話であって、そこを誤解のないようにはっきり説明する必要があると思います。こういう前提条件が満たされなければ安全ですよ、と。

ただ、現時点、設計ミスがあったかと思えば、また、硝酸制御液が漏れた、立て続けにこういったトラブルが起きている状況で迂闊に安全ですよ、大丈夫ですよと、言うとな安全性チェック検討会自体が信頼できるかどうかという問題にもなって来ると思います。それがまず1点。それと、日本原燃の児島社長には2月10日の説明会の時に簡単な説明をしましたが、まず児島社長が一生懸命謝罪されるのは分かるし、少し納得がいかないのは元請会社が一切謝罪しに来ないという事自体が信じられないですね。日本原燃さんが見逃したのは確かに間違いかも知れないけれども、計算ミスした本人が全く来ない。どういう気でのかな、と。そこで設計ミスしたIHIの設計者というのは、どういう人なのか。設計したのは1人が図面を書いて、すぐ現場に行くものでもないし、確認する人がいると思うんです。社内でもクロスチェックということで係長、課長、室長くらいまで3段階、4段階ぐらいチェックされていると思うんですよ。そういう意味で先ほどトップマネジメントと、社長の関与というところも出て来ていますけれども、私が聞いたのは2週間前ですから十分その間違いが起こるまでの原因については十分追求されていると思いますので、その辺を納得いくようにご説明して貰えますか。

#### 【司会】

只今の話はこのあと、多分ご提案されているものが別途あったんだろうと思うんですけども、今、聞いたのは関連についてということで、そのあとやる分については、その都度答えさせていただきますので、とりあえず今のIHIの話は別途取り上げますので回答はその段階でお答えさせていただきます。

#### 【安全性チェック・検討会】

それでは品質保証体制の他の件について、主査が申し上げましたが、少し補足して申し上げたいと思います。品質保証体制につきましては28ページに記載しておりますように、日本原燃におけるどのような品質保証体制の改善がなされたかということについて評価させて頂いております。ご承知の通り、品質保証体制は、ここにありますように使用済燃料の受入れ貯蔵施設による不適切な溶接というものが14年に見つかって、その後、日本原燃としては全社的な品質保証体制を構築すると、いわゆる下請会社のああいふ溶接を見つけられなかったことに対して、繰り返すことになりませんが、トップマネジメントによる品質保証を徹底したいということをはじめとした3点。そういうものを構築されて全社としての再処理工場を含めた品質保証というものについて、一定の評価がされているわけです。この評価をされて再処理工場は使用済燃料の受け入れ開始並びにウラン試験の開始を進めて来た、事実関係を我々としては事実として認めております。そうした参加の中で二度とそういうことがないようにMOX燃料加工施設については、建設段階の品質保証として、こういうことでやりますよと、その資料の下に書いてありますが、次のページに例えば建設段階の各段階において、どうするかということにつきましては技術専門家、技術者を擁した建設管理に反映すると同時に、MOX燃料加工施設の要員についてもいろいろなプロパー社員の教育をしていきますということで建設、運転に従事させ、資格認定等の技術向上を図っていきます。それから必要なのは受注会社の事前評価、受注会社に対する品質監査の実施等の管理強化を含めて建設段階に不適切な溶接等があった時代の二の舞いを踏まないような対策を講じます。こういう対策を講じることで二度とそういう不祥事を起こさないようにするんだ、そういう反省を反映させてやっていくんだと、こういう意思表示がございませう。こういう内容を我々としては品質保証体制がこれからのMOX燃料加工施設に対する品質保証の一つの発展した段階のものとして評価させて頂いたということでございます。

【司会】

では、次の先ほどご発言がありましたけれども、元請会社の石川島播磨重工がなぜ計算ミスをしたのか、誰がミスしたのか。そして、なぜ石川島播磨重工自らが謝罪しないのかという質問がございますので、これは日本原燃からお答えをお願いします。

【日本原燃株】

日本原燃から回答させていただきます。ガラス固化体の貯蔵施設でございますけれども、現在、操業中のものが1つ、建設中のものが2つ、建設準備中のものが2つと合わせて5つございます。この運転中のものがございますけれども、これは海外からの返還ガラス固化体を貯蔵する施設でありまして、すでに900本ほどのガラス固化体を貯蔵していますけれども、常に温度等を監視しながら運転しています。安全に操業して来ているというものでございます。このガラス固化体貯蔵施設の設計ですけれども、まず一番最初に5の施設を全部併せて、4つですね、すみません。運転中も含めて設計をしたわけですけれども、のちになって今操業しているもの1つを除いて設計変更をした経緯がございます。少し、ご質問に回答するためには長くなりますけれど、古い話からした方がいいと思いますので説明させていただきます。最初に、今、安全に操業している施設を設計した際には、元請会社の設計者がどういう計算式を使ってこの施設を設計しようかという文献とか、そういう書類を調べて計算式と我々は呼んでいますけれども、どの式を使うかということをいろいろ検討して1つの式を選びました。この式を選んで全体を作る計算プログラムを作りました。この式を選ぶ時には担当した設計者は当時の上位の課長に相談をして、この式を適用して問題がないことを確認を得ています。その後、確認を得たことでこのプログラムの使用マニュアルを作りまして、上位の課長の承認を得たということで設計をしました。その結果として、最初にも言いました通り、最初に設計して作った施設というのが今、安全に設計通りできている。予定した性能通り、きちんと出て安全に運転しているものでございます。その次に設計変更をした際には最初に設計した設計者は既に退職していたということで、その仕事を引き継いだ設計者が最初に設計した設計者が作ったマニュアルを参照して新しい設計に合うようにプログラムを変更して計算を行いました。このプログラムを変更する時に式の解釈を誤って間違った計算結果を出してしまったというのが状況です。この際にどういうことをしたかという、計算を間違っただけでプログラムを作った設計者は、まず結果を上位の課長職に説明をして、確認を得ました。報告を受けた課長は、その計算結果が構造変更等もあって圧力の損失、空気が流れる、流れ難さですけれども、4倍になっていることから計算結果を妥当と判断をしました。その結果について、本来、更に上位職、いわゆる部長クラスになるわけですけれども、部長がその設計でいいかどうか、プレビューする決まりになっていましたけれども、この報告を受けた部長は計算結果を見てチェックして、これでいいと判断したということです。2週間程前、六ヶ所の会場でご質問を受けた際には1人でやったのではないかなというご質問もありましたけれど、こういうように上位職の確認を得ながら実施したというのが実態でございます。この内容につきましては1月28日に国、県、村に報告した報告書の中にも記載してございますけれども、説明させて頂くと今のような話になります。それから設計ミスをした元請会社が謝罪すべきだというご質問ですけれども、日本原燃はこの六ヶ所で再処理事業を行うに当たって青森県の了解を得て行っているわけでございます。法律的にも原子炉等規制法に基づいて再処理事業者として指定を受けて実施していることで施設を安全に操業すること、その施設でいろいろ起こったトラブル等についてもきちんと責任を持って対処し、説明する責任があると理解しています。そういうことから皆さんのご

質問に対して原燃から回答させて頂くというのが我々の責任だと考えています。

【司会】

よろしいですか。それでは次の質問に。

【会場から】

確認した課長も圧力損失が4倍になっているところまで分かっていながらその決定的な温度が、例えば全く同じことに対しておかしいと思わなければいけないと思うんですけども、そこはどうだったんですか。計算するまでもなく。

【日本原燃株】

ガラス固化貯蔵施設の設計の一番の目的はガラス固化体の設計目標の温度、それから勿論、ガラス固化体ということで放射線が出るわけですけども、これをきちんと遮へいできることが要求される性能でございます。この迷路板という出入口の所にある構造ですけども、これは計算する上ではごく一部分でございます。空気の流れ難さの抵抗はその部分だけではなくて、空気が建物に入ってからガラス固化体を冷却して出て来る所まで全て抵抗があって初めて計算できるわけで、特定の部分の抵抗が4倍になったからと言って全体として温度がすごく利くというわけでは勿論ございません。圧力損失が4倍ですけど全体の抵抗、その抵抗の結果として計算されるガラス固化体の温度というのは設計目標に入っていたということで問題ないと判断したと調査の結果分かってございます。

【会場から】

簡単な確認ですけど、設計前と設計変更後で温度は全く同じということではなくて若干高かったということですか。国に設計変更して温度がこうなりましたと提出したものは。

【司会】

日本原燃からお答えをお願いします。

【日本原燃株】

全く同じということでは勿論なかったと思います。繰り返しになりますけれども流路の抵抗は温度解析を行う上的一部分でございます。元々もの設計というのは迷路とルーバーとの組み合わせで行っていたことでそのトータルで見ると温度としては勿論変更はありますけれども、大きな変化が無かったことで判断したと調査の結果でわかってございます。

【司会】

それでは次のご質問に移らせて頂きます。施設の安全が確保されるのであれば、雇用の場としてはよいと思うが、300名の要員の中でどの程度、県内から採用する考えなのか、教えて下さいというご質問でございます。日本原燃からお願いします。

【日本原燃株】

はい、お答え致します。MOX燃料工場の操業に当たりましては約300名の要員が必要だと現在考えております。この要員の確保でございますけれども、先行の事業者であります、国内のウラン加工メーカー及びプルトニウム燃料加工の先行業者であります核燃料サイクル開発機構からの人的支援も得まして、この300名を確保していこうと考えています。勿論、我が社として、我が社採用のプロパー社員を建設が終了するまでに順次採用していくということで考えてございます。具体的な人数につきましてはこれから検討していかなければいけないことですが概ね70～80名は新規プロパーとして採用することを考えておまして、県内からも広く優秀な若者を採用していきたいと考えてございます。

【司会】

次も同じような地域進行の関係の質問でございます。青森県の医師確保対策に電事連も相当なお金を援助しましたが、今後も青森県には援助を続けていく考えなのかどうかという質問でございます。これは電事連からお願い致します。

【電気事業連合会】

ご質問にありました医師確保に体するご協力ですけれども電気事業連合会と致しましては、青森県内においていろいろな事業を実施、あるいは計画させて頂いております。その事業は我々の会員会社の職員も多く勤務しております。従いまして、今回、市長会並びに町村会からご要望のありました医師確保問題への対応につきましては、青森県のみならず、私ども職員にとっても切実な事柄であり、また、ご要望にご協力することは私どもの事業に対する安全・安心の構築の一助になるものと考えております。

【司会】

それでは次のご質問に移ります。総点検で点検したところ、していないところについてわかりやすく説明して下さい。今後は二度と点検漏れによるトラブルは起こさないと約束できますかという質問でございます。これは日本原燃からお願い致します。

【日本原燃株】

ご質問の総点検で点検したところ、していないところということでございますけれども、プール水の漏れをきっかけとして総点検を行ったのが一昨年から昨年にかけてだと記憶しています。その際は操業中のプール、使用済燃料を貯蔵するプール、それから、今も試運転ですけれど、当時、化学試験を行っていた通水作動試験を行っていました再処理の本体施設について事業指定申請書に記載された設備と建物を点検対象としました。これは使用済燃料の受入れ貯蔵施設のプール等における不適切な溶接があったということ。それから埋め込み金具の問題、硝酸漏れ等々といったことから当然、実際にトラブル等を起こした施設が含まれているものでございます。ただ、安全を確保するという観点からセルと称するコンクリートの分厚い壁を持った小さい部屋の外にあります一般のユーティリティということで、例えば、蒸気であるとか、空気であるとか、純水とかを扱う施設は何か問題が起こった時にも直ちに安全上問題になるわけではないということ。それから起こった場合に、我々は復旧と言いますけれど、直すことが容易にできるということから当時は点検の対象外としています。点検ということで設備を健全に動かせることを確認す

る観点から、設計通り、物ができているかどうかを点検しました。その後、ガラス固化体の設計上の問題。それから、先週でしたか、硝酸性溶液の漏えい等も鑑みまして、その都度点検範囲は追加しながらやっています。このようなことで二度と点検漏れによるトラブルはないのか、約束できないのかということでございますけれども、これも説明させていただきますと、再処理工場は総点検の時にご説明したかと思えますけれども、27万点という施設からできています。これらを全て、勿論、物事を作っている段階で全て、我々は繰り返し繰り返し点検しているわけですが、人間がやることには限界があるだろうということから先行するプラント、これはサイクル事業さんの東海の再処理工場、フランスの再処理工場、イギリスの再処理工場の運転経験として1200点に及ぶトラブルの発生事例を入手して、それらを細かく分析して、27万点にも及ぶ施設というのはどういうトラブルが実際に起こるのかどうか、そのトラブルの経験をどう反映したらいいのか緻密に計算して190事例に及ぶトラブルの事例を作って繰り返し繰り返し点検したり、毎日、目を光らせてもトラブルは皆無にはできないだろうということでそういうものを作っています。勿論、この再処理施設の設計はそのようなトラブルが起こっても直ちに環境に影響がないように多重防護ということで事象の発生を抑えるとか、拡大を抑えるとか、事故になっても環境には影響を及ぼさないように、これを多重防護と言いますが、そのような設計をすること、それから使いながらも常に試験を着実に行って、その結果に基づいて改良すべき点は毎回毎回、改良していくと、運転中も常にモニターしながらトラブルが起こりそうな兆候があれば手直しをしていくという繰り返し行うことで安全を確保する努力を日々続けているという点でご理解頂ければと思います。

【司会】

はい、今の関係で何かございますか。よろしいですか。

【会場から】

今の説明は十分理解できます。それでやはり言葉の使い方もあると思うんです。総点検と言われた時に全てと思うんですよ。で、聞いてみる設計通りに作られたかどうかを点検しましたということだったんじゃないですか。設計ミスについては、硝酸性溶液が漏れたのについてはそれは主要なところではないという話ですから、言い方としては例えば、主要設備については総点検したとか、何かないと漠然と総点検と言われたら全部と思うわけです。それから安全性チェック検討会でも安全性は十分確保できるもの、その十分というのは県民からすると非常に高いところを想定する言葉だと思うんですね。今の話を聞くと、やはりフランスでも1200点トラブルがあり、人間がミスすることもあるということを見ると、安易に県民に期待を持たせるような言葉がいいのかどうか。例えば、まあまあ確保できるとか、そこそこ確保できるとか。もう少し県民が受け取るイメージに近いものを何か選ぶ必要があるのではないのか。過剰な期待を持たせるとどうしてもまた、あの時あれほど言ったのになると思うんですね。そこをぜひ検討して頂きたいと思います。

【司会】

日本原燃の方で何か。はい、検討会から。

【安全性チェック・検討会】



町さんが言われた意味あい、私も理解します。ただし、私どもはそういう意味から言いますと、今、MOX燃料加工施設ができていないわけではなく、まだ計画の段階ですね。その段階での安全性チェック検討ですからあくまでもあることを条件にして、こういうことをきちんと守ってやってくれば安全性を確保できるという物の言い方になるということだけは申し上げておきます。

【司会】

はい、日本原燃の方で何か。

【日本原燃株】

誤解を招いたということでございますので今後、言葉の使い方、説明の仕方は参考にさせて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

【司会】

次は説明会の在り様についてご質問が3点ほどありますので、まとめてご回答頂ければと思います。説明会が終了しましたがと書いていますが、今終わればということだろうと思います。MOX工場に関する県の今後の手続きはどのようなようになるのかというご質問が1つあります。それから、今回の説明会の目的は何か。また、目標はどのように設定しているのか。その目的達成のために説明会以外の方法も考えているのか。また、目標に対する達成度をどのような方法で確認する予定があるのか、説明会に対する考え方を確認したいというご意見、ご質問でございます。それから、MOX工場について県民の考えをどのような方法で確認するつもりなのかという説明会のあり様、関連する質問ということでまとめて答えて頂ければと思います。

【青森県】

それぞれ関連するご質問だと思います。従いまして、まず初めにこれからの手続きと言いますか、どういうふうな形で進めるかということをご説明申し上げまして、そのあと幾つかの関連するご質問にお答えしたいと思います。この専門家によるチェック検討の結果を受けましたのが、2月1日であります。県はこれを受けまして、さる2月15日に県民の代表である県議会議員からご意見を伺っております。そして、2月17日には地域住民の代表である市町村長の皆様からご意見を伺いました。そして、同日、青森県原子力政策懇話会から、ご意見を伺っております。そして、現在、県内6地区で県民説明会を開催しているところであります。更に今回のMOX加工施設については、こうした手順に加えまして、更に今回の施設が昭和59年の原子燃料サイクル施設に係る立地協力要請外の施設であることを踏まえまして、その判断に慎重を期することから別途、県民の皆様から意見を伺う場を設けることを知事から指示を受けております。従って、そういう手続きもあろうかと思っております。こうした手続きを経て県民の考えを確認をしていきたいと考えております。それから説明会の内容について県民の方々が果たして理解したのかどうか、目標をどう設定したのか、説明会の目的は何かという話であります。これは副知事の挨拶にもありました。また、安全チェック検討会からもご説明がありました。今回のこの県民説明会は、MOX燃料加工施設に係る専門家によるチェック検討結果について、県に対して報告があったことから、その内容について

県民の方々のご理解を得るために開催しているものであります。従って、直接ご検討頂いたチェック安全検討会の大桃主査、小山委員にも出席して頂いて開催しているものであります。その目標をどう設定するかということですが、なかなかその目標を数字的なもので設定することは難しいわけですが、目標は勿論、県民のご理解を得ること、理解の促進を図ること。これが県民説明会の目的であります。従って、例えば出席者の数が多ければいいというものではないかも知りません。理解がどの程度進んだかというものについて、なかなか数字的に表わし難いわけですが、いずれにしても県民のご理解を得るためにこの説明会以外にも新聞広報、あるいは「原子力だよりAOMORI」を活用した広報を実施することとしております。また、県ではこれまでもこの原子燃料サイクル施設、あるいは原子力発電所についての情報提供といったものについては直接的な対話を行うことによって県民の理解を促進するための活動をいろいろして来ております。県内各地域へ出向いて地域座談会、あるいは地域懇談会を開催しております。テレビ、ラジオ、パンフレットを活用してのマスメディア広報などの事業も実施して来ております。MOX燃料加工施設については、本来的には国策であります。国策である原子燃料サイクル施設でありますので、まずもって国及び事業者が県民の理解を得るために広報広聴活動を積極的に行うべきものと考えておりますが、県としてもMOX燃料加工施設を含めて原子燃料サイクル施設の安全性等について県民の理解が促進されるよう、今後とも分かりやすい広聴広報活動の実施に努めていきたいと考えております。

#### 【司会】

説明会等についての考え方に対する回答をさせて頂きましたけれども、これに対して何かご意見あるいはご質問等ございますでしょうか。

#### 【会場から】

私は県民がどう考えているか、確認する方法は簡単だと思います。住民投票という大袈裟なことをお願いしているのではなくて、一万人アンケートだとか、政策マーケティングでのアンケートだとか、2000人規模のものもあると思いますけれど、その何かのアンケートのついでに1項目、MOX燃料加工施設の建設について賛成ですか、反対ですか。それだけでもいいと思うんです。そうすれば簡単に県民がどの程度理解しているか、わかると思います。それとあと、国、事業者がやはり理解を得るべきだと思います。これは当然だと思います。何も県が県のお金を使って国とか事業者がやるべきことをやってあげる必要はないと思います。本当に事業者も国も国策としてMOX燃料加工工場をどうしても作ってほしいとなれば必死で県民から理解を得る活動をするべきだと思うし、県はそこをしっかりと確認するべきだと思います。そこを強く要望しておきます。

#### 【司会】

はい、ご意見として承っておきます。その他、様々なご意見、ご質問でなくてご意見が寄せられておりますので、この機会に披露させて頂きます。「日本のエネルギー事情、そして地球温暖化対策等を考える時、自ずと原子エネルギー、核燃料サイクルは必要不可欠であることは明白であります。一方、マスコミに取り上げられている原燃のニュースと言えはいつもトラブル発生と社長が頭を下げる姿ばかりが目につきますが、青森県の経済並びに雇用にもたらす波及効果等は大きいものと思います。また、これまで原燃のトラブルより環境に影響を及ぼすようなことは発生していないことも事実であり、冷静な議論と判断が必要

と思います。原燃もマスコミももっと貢献している部分を公表して頂いて県民と共存共栄して事業を進めてほしい。」というご意見が寄せられております。それから、「県は再処理を含め、このMOXの18年の日程に合わせて努力されるようお願いする。より豊かな暮らしのために。」18年という言葉がちょっとあれなんですけれども、努力されるようお願いするということだろうと思います。意見が違っていましたらあとでご修正お願い致します。「MOX燃料加工技術基盤が日本原燃にあるとのチェック検討会からの報告を頂いた。また、MOX燃料加工施設の安全対策についても確立されていると判断するとの報告があった。要は日本原燃がこれから如何に

ミスを起こさないようにしっかりと工事をする。そして、技術も確立するかにあると思う。小さなトラブルが続いている日本原燃だけに私たち県民は不安を持っています。期待を裏切ることのないよう頑張してほしい。」というご意見でございます。次は、「今、私たちの生活意識の転換の必要性が言われ、一人一人が考え初めています。その力が大きくなり、生活様式も変化するはずで。エネルギー転換により今後、原子力に依存しなくてもよくなることも考えられます。そのような状況になれば、MOX燃料加工施設も不要になるのであって、もの凄い負の財産になってしまうのではないかと心配です。」というご意見が寄せられています。それから、「原子力に不安がないわけではありませんが、これからのエネルギーや環境問題や私たちの子供たちのこれからの生活を考えれば原子力を真剣に考えていくことが大切だと感じています。その意味で県、事業者等がこのような説明会を開催することは良いことだと思います。できれば新聞等にも概要を載せ、県が真剣に取り組んでいる姿勢を県民に知らせることも大切だと思います。」というご意見です。次は、「エネルギー資源が乏しい国でありながら何不自由なく過ごしているのが現実。核燃の各地で行われている説明会の重要さは大変参考になりますが、一方で安全を厳しくチェック、安全を協定しているはずが、次々と報道され、水を差す関連事故、今回は設計ミス、硝酸溶液漏えい、私たちにはこの大小にかかわらず原燃への不安につながる大きな原因となっている。事故が起きてからでは遅すぎる。もっと安全対策を念頭に置き、安全最優先に関係者には行動して頂きたい。現状が続けば賛同できなくなるし、残念ながら不安になりつつある。」というご意見がございました。それと安全を第一に将来のエネルギー確保のために確実に事業を進めて頂きたいというご意見も寄せられております。以上、これまで頂いたご質問、それからご意見、ご要望を取りまとめて、併せて回答させて頂きました。それ以外に、今、ご発言頂けなかった方、あるいは今の話を聞きながら発言をという方がいらっしゃれば挙手頂ければマイクをお持ちします。何でも構いませんので、MOXのみならずサイクル関係でもご意見、あるいはご質問があればこの機会にお受けしたいと思いますけれどもいかがでしょうか。特定の方のみならず、せっかくお集まりでございますので国からも事業者も来ておりますのでいろいろな形の意見に対してお答えできるのはお答えさせて頂きたいと思います。特にないでしょうか。それでは、はい。

#### 【会場から】

私は農業をやっている関係でどうしても気になることがあって、毎回こういった説明会に参加しているわけです。例えば、年金何か、社会保険庁が信用できなければ払わなくなるわけですし、NHKも信用できないとなれば受信料を払わなくていいんですけれども、こういった原子力関係というか、電気に関しては電気事業者、原発でもそういった施設で何かトラブルがあったり、問題が起こると電気料金を払わないというお客さんが出るのではなくて逆にその地域の農産物を買わないとか、そういった風評被害の方に来るんですね、どうしても。ですから、農家が自分でやったことではないのに、とばっちりばかりを受ける

と。そういう意味では本当に相性悪いと思っています。そういう意味で特にリスクが高い施設ですから、絶対事故が起こってもらっては困るし、青森県が今、財政も非常に厳しくて地方交付税も減らされて、北朝鮮に例えれば、日本政府から経済制裁を受けているような感じですね。ですから先ほどの医師対策の部分でもお金を引っ張り出すのは電気事業連合会とか、そういった関係の方しかない。青森県は放すわけにはいかない。そういう存在になっているのだと思います。ですから、そういうリスクを抱えながら、そこで事故を起こされると、それ以上に青森県が受けるダメージは大きいですからとにかくイメージが悪くなるようなことは絶対に今後起こさないようにそれをひとつ要望します。

#### 【司会】

はい、農業者の立場からの声ということで受け止めさせて頂きたいと思います。他にこの機会に発言してみたいという方はいらっしゃいませんか。よろしいですか。それでは、予定時間より少し早いのですが、今回の説明会の終わりに当たりまして副知事よりご挨拶を申し上げます。

#### 【青森県 蝦名副知事】

ずっと今まで6地区でこれまで説明会を開催してまいりました。それぞれの会場で大変厳しいご指摘を賜りました。大変ありがたいと考えております。今、会場からご意見がありましたようにやはり私どもが県民から厳しいご意見を賜り、そして、それをもって緊張感を持って対応していくのが大切だと思います。日本原燃も勿論そうでありますし、今日、国からも来ております。私ども県も緊張感を持って事故につながるように今後とも心していかなければならないと、あらためて思っているところでございます。また、今までの原子力というのは、国民に対して原子力は安全だから大丈夫だというふうなコメントをずっとしてまいりました。しかしながら、先回の日本原燃の使用済燃料の貯蔵施設のプール水漏えいで神田委員会がいろいろ議論した時に、むしろトラブルというものはあるんだと明らかにして、そのトラブルの内容を事前に県民にお知らせし、そのトラブルの範囲に収まっているかどうかというものを情報公開していくことが大切ではないか。県もいろいろな方々を外国に行って頂いて、いろいろな施設を見てもらっております。私もイギリスのセラフィールドの施設を見てまいりましたけれども、そこで言っているのは、住民の方々に聞いても、あるいはそこの代表者の方々に聞いても原子力は危ないんだと、危険なんだと、だからそれを人間の英知で安全なようにきちんと守っていく。そういうことが大切なんだと盛んに言われたわけでありまして。おそらく日本もそうでなければならぬと私は常々そう思っております。従って、一番大事なのは県民に信頼して頂くためにはまず情報公開を徹底することだと思います。私どもは三村知事になってから、県議会で全員協議会を5回開いているわけですが、関西電力の美浜の事故があった時に、社長自らに来てもらって県議会全員協議会を開催したのは青森県だけでございます。そして、市町村長、あるいは政策懇話会にもなぜ事故が起きたのか、これからどうするのかということについて社長自らに質問して、答えて頂いたということです。それから、私どもはいろいろなことがある度に全員協議会を開いて県議会のご意見を賜っておりますし、あるいは住民の代表である市町村長、あるいは政策懇話会、そしてこの県民説明会というものをやってご意見を賜っているわけですが、先般、2月16日の硝酸漏れについては、トラブル事例の範囲ないではございますけれどもこの通報体制がどうであったかということについてご報告したいと思っております。今まで日本原燃の通報体制は非常に遅かったのであります。何度か、三村知事、私は副知事でありますけれども、日本原燃を大変厳しく叱ると言うんですか、来たわけ

であります。今日は16時43分ですか、40数分頃に発見して、日本原燃の責任者である青柳部長が17時15分に確認致しました。そして、県に報告があったのは17時22分であります。そして、県三役に報告があったのは17時29分であります。これにつきましては、今日は安全・保安院の古西課長が来ていらっしゃるかもしれませんが、前の薦田審議官に日本原燃の通報体制がなっていないと。とにかく起きたら、まず国、県、村にまず、第一報をして下さいと。そして、その変化の都度都度、情報を流して下さいと。そうすれば我々も県民の安全を守るためにいろいろな体制ができるんだということを大変強く要望したわけであります。そうしたら、薦田審議官から、三役も担当部長、課長も眠れなくなりますよと言われました。そんなものではないと思います。とにかくやって下さいということで今回、硝酸漏れ自体は良いことではありませんけれども通報体制は非常に速やかに行われたと私は感じています。今、大事なことは先ほども言いましたように県民に被害を与えないことであると思いますし、被害を与えないために県として、国として、村として何をするか。それを速やかにできる体制を整えるような、情報連絡の体制が必要であると常々考えております。これからも今日の頂いた、今回の説明会で頂いた県民のいろいろな言葉、大変厳しいご指摘もありました。これにつきましても知事に報告し、判断の材料にして頂こうと思っております。本当に長い時間ありがとうございました。これからもいろいろな場面で私どもにいろいろな意見を寄せて下さい。本日は本当にありがとうございました。

【司会】

大変長時間ありがとうございました。これをもちまして本日の説明会を終わらせて頂きます。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。